

# 自立活動だより



愛徳分教室は、愛徳医療福祉センター内にある紀北支援学校の分教室です。愛徳分教室には小学部と中学部があり、どちらにも肢体不自由普通学級と肢体不自由重複学級が設けられています。在籍児童生徒数は、小学部7名、中学部6名です。（H27. 1. 8現在）

児童・生徒は毎日、愛徳医療福祉センターのリハビリテーション課のPT、OT、STのリハビリを受けています。そのため、分教室では各セラピストと連携がとりやすく、得られた情報を日々の自立活動に活かしています。今回の「自立活動だより」では、分教室の各学級の自立活動の取り組みについて紹介します。

## 【小学部A（普通学級）の取組】

- 1 自立活動の時間帯：月曜日の12:50～13:30
- 2 該当の児童：小学部2年1名、3年1名
- 3 単元名：ギターを弾こう
- 4 ねらい：達成感や自信を持つことで、病気の克服に向けた意欲を高める

友だち同士がお互いに協力できるようになる

5 設定の理由：入院生活を送っている児童は、常に病気と向き合い、自己管理が必要なため身体的なストレス、また地域の学校に戻った時の学校生活への不安や長期入院に対する精神的なストレスを感じています。これらのストレスを少しでも解消し安定した生活を送るためには、好きなことを見つけ、身につけて達成感や自信を持ち、周囲の人と積極的に関わりを広げていくことが大切だと考えました。達成感を得られる活動を考える中で、年上の友だちがギターを上手に弾きみんなの前で発表している姿にあこがれを持っている様子を見つけました。そこで、ギターを使った活動を通し、「僕もこのようになりたい」という身近な目標をもつことが、達成感につながると考え、活動を設定しました。

6 取組内容：ギターの練習

7 成果：取組の結果、ギターに親しみ自分が努力することで、上達を実感することができました。さらに、人前でその成果を発表するという経験をすることが自信につながりました。このような経験は、普通学級の児童にとって、治療を終えて地域の学校に戻るときの不安を軽くするだけでなく、逆に大きな自信となって児童を支える力になると考えられます。

## 【小学部B（重複学級）の取組】

小学部Bの児童の実態は様々です。「健康の保持」や「身体の動き」に関する課題も多いのですが、視覚に課題のある児童の「視覚へのアプローチ」として、注視や追視を促す教材の一つを紹介します。『いっしょにあそぼ しましまぐるぐる（え・かしわらあきお 株式会社 学研教育出版2009年初版）』です。「おうちのかたへ」のなかで『黒、白、赤といったコントラストの強い配色の線や形、目や口がある「顔」の絵は、生後6ヶ月くらいまでの赤ちゃんでも注視することが知られています。赤ちゃんの目から20センチくらいの位置で見せてあげてください。初めての「見る」感覚に、赤ちゃんの喜ぶ姿が見られるでしょう。』と紹介されています。

<この絵本を活用して・・・>

- ・この絵本を提示するとその方に視線をよく向けるようになりました。
- ・繰り返し見ることで、お気に入りのページができました。
- ・ページを半分ぐらいめくると、「次は何かな？」と期待するようになりました。
- ・自分でページをめくろうとすることが増えました。
- ・他の場面でも追視や注視することが増えました。

<参考として>

この絵本や子どもが縞を注視選択できるかによって視力を測定する TAC を参考に、色カードを作成しました。色の部分を縞々にしました。縞があることで視覚的注意を喚起することができ、通常のカードを提示するより、注視しやすくなりました。提示する時に、背面を黒にすると、より注目することができています。



### 【中学部B（重複学級）の取組】

中学部では、生徒の実態を考え、自立活動の内容の6区分の中で「健康の保持」「身体の動き」「環境の把握」を中心とした自立活動に取り組んでいます。

「健康の保持」の内容としては、

- ①痰が溜まり、咳きこみが出て全身の緊張が高まってしまう生徒に対して、「側臥位姿勢で背中をさすったり姿勢変換による排痰介助」を行っています。
- ②上唇が降りにくくコップを使っての水分の取り込みが苦手な生徒に対して、「口周りの刺激の緩和や上唇を降ろすための口周りのマッサージ」を行っています。
- ③呼吸状態が悪くなりやすい生徒に対して、病棟に行って吸引をしてもらうほかに座位保持椅子での姿勢変換に気をつけて、呼吸が楽にできる姿勢保持に努めています。

「身体の動き」の内容としては、

- ①身体に触れられることが苦手な生徒や常に上肢や下肢に緊張が入り身体を丸めてしまいがちな生徒に対して『ふれあい体操』や『リマックⅡ』を行い、リラックスを試みたり、上肢（肘、手首、手指）や下肢（足首、膝）のROMex.により、筋緊張の緩和を行っています。

- ②下肢の筋力の維持増進として、立位台を使っての立位練習や歩行器を使っての歩行練習を行っています。立位は、「朝の会」の時間に行っています。歩行器を使って自由に園内を散歩できることがうれしいようで、筋力の維持増進につながっていけばと思っています。

「環境の把握」の内容としては、

- ①手足の過敏性が残っている生徒が多いので、「手浴や足浴、タオル、スポンジ、ブラシなどいろいろな素材に触れる」活動を行っています。
- ②聴覚優位な生徒に対しては、音楽を聴きながら布あそびや抱っこしての絵本の読み聞かせを行い、『快』を広げていく活動を行っています。



歩行器



立位台